

各務原市 青少年教育課 市P連担当 大橋 久也 様

いつも御世話になります。

桂 ぽんぽ娘さんからの返事、遅くなり申し訳ございません。

お返事 そのままメールいたします。

①親にいえなかった話を人前でするようになったきっかけ

娘を出産したときに、同性ということもあり、もしかしたらこの子も、自分のようにいじめられるのでは？ という漠然とした恐怖がありました。どうしたら娘がイジメられないか？ 毎日考えました。そして思い出したのがいじめている方にはイジメという感覚はなく、イジって遊んでいるという感覚だったということでした。大人達も、イジメをイジリと認識して見逃していたので、誰もわたしの気持ちをわかってくれませんでした。被害者である自分が声をあげない限り、イジる＝イジメにつながるというのは、理解されないということに気付きました。この間違った感覚を直さない限り、世の中からイジメなんかなくなる。なくなる限り、娘が被害者にも加害者にもなる可能性がある。それが耐えられなかったので、講演をはじめようになりました。

②娘を加害者にしないモラル

まだ小学校一年生なので、先のことはわかりませんが、いま徹底して教えているのはこの2つです。ひとつが人にあだ名をつけない、呼ばない。ふたつめが男だから、女だからなど、相手を決めつけず相手の個性を受け入れるです。あだ名は親しみを込めて呼びあっても、ふとしたきっかけでイジメに発展する可能性が大きいからです。

ですので、そういったリスクを回避するために、あだ名は呼ばないようにしています

もうひとつはイジメをはじめるとはきっかけはなんでもいいと思うんですが、例えば相手が男だから、女だから、太ってるから、痩せてるから、男の子なのに女子っぽいから、女の子なのに自分のことオレっていうから、理由はなんでもいいけど、相手の個性を受け入れられないから、イジめるんだとおもうんです。なので娘には、相手の個性、特徴を否定しないように話しています。

③ぽんぽ娘が考える冷やかしじりにくい笑い

これに関しては、一般の方がされるイジりは全てNGだとおもっております。それだけ、イジるというのは、専門性の高い難しい笑いの取り方で、イジルのもいじられるのも、どちらもプロだから笑えるというのが大前提だと思っております。いじりにくい笑いは、普通に考えてプロであっても、震災や事件などで被害者がでているものはNGだとおもっております。ご確認の程、宜しく願い申し上げます。